

Wicked

(2024年 / 2025年映画)
をより楽しむために

2026年1月23日

目次

- **Wicked映画版**
- **映画化の経緯**
- **歴代映画版ミュージカルとの比較**
- **主な配役**
- **Part 2 のアカデミー賞の予備投票と正式/ミネートの結果**
- **映画版をより楽しむために**
 ブロードウェイ、劇団四季を見た人に
- **アメリカ童話「オズの魔法使い」**
- **オズの魔法使いが描いたアメリカ社会**
- **現代に引き継がれるメッセージ**
 「Wicked」は「オズの魔法使い」とどうつながっているか
- **(参考)ブロードウェイ版オリジナルキャスト**
- **(再録)ブロードウェイでの個人的感想 ～ 日本語訳の難しさ ～**

Wicked映画版

■ 公開

Part 1 ふたいの魔女 2024年11月23日（日本 2025年3月7日）

Part 2 永遠の約束 2025年11月21日（日本 2026年3月6日）

（ブロードウェイ初演 2003年6月10日、劇団四季 2007年6月17日）

■ 上映時間

Part 1が2時間40分、Part 2が2時間17分、合わせて約5時間

（ブロードウェイ：2時間30分、休憩15分、計2時間45分）

映画はブロードウェイの倍の長さ、最新技術のスペクタクルな映像とバックグラウンドの音響効果を加え、より幅広い年齢層、階層をターゲットにしている

■ 制作費

映画（ハリウッド）：Part 1とPart 2を合わせて 約3億ドル（約450億円）

ブロードウェイ：約14百万ドル（約20億円）

■ 対象年齢

映画：PG指定で年齢制限なし（ブロードウェイ：6才以上、劇団四季：3才以上）

■ アメリカでの評価（得点/満点）

映画：IMDb(Internet Movie Data base) Part 1が**7.4/10**、Part 2は**7.0/10**

ブロードウェイ：Critics review **5.33/10**、観客(Reader) **7.17/10**

映画化の経緯

- ブロードウェイでの成功により、プロデューサーのマーク・プロットとデビッド・ストーンならびにユニバーサル・ピクチャーによる映画化の話は2010年頃から噂されていた。
- 誰が監督や主役に起用されるのかが度々話題になり、ウーピー・ゴールドバーグ、ミッシェル・ファイファー、エマ・トンプソン、ニコール・キッドマンらの名前が上り、グリンダにはレディー・ガガの出演が検討されていると言われた。
- 計画はコロナ禍もあり度々遅れ、2021年2月に監督に中国系アメリカ人でカリフォルニア出身のジョン・チューの起用が決定。その11月にシンシア・エリーボとアリアナ・グランデの出演が発表された。
- ブロードウェイ初演から20年を経過した映画化はブロードウェイと同じプロデューサーにより制作され、その間の映像技術の変化を取り入れ、2時間30分の舞台版をPart 1とPart 2に分け、延べ5時間の長編としリメイクしメッセージ性の高い映像になった。

歴代映画版ミュージカルとの比較

		公開	制作費	興行収入	映画配給会社
Wicked	映画版 Part 1	2024年	\$150M (約230億円)	\$759M (約1,170億円)	ユニバーサル
	映画版 Part 2	2025年	\$150M (約230億円)	\$511M (約 790億円)	
	合 計		\$300M (約460億円)	\$1,270M (約1,960億円)	
	ブロードウェイ	2004年	\$14M (約22億円)	\$1,000M (約1,550億円)	-
	ウエストエンド	2006年	na	na	-
	日 本	2007年	na	na	-
ライオン・キング	映 画 版	2019年	\$260M (約400億円)	\$1,657M (約2,570億円)	ウォルト・ディズニー
	ブロードウェイ	1997年	\$20M (約31億円)	\$2,150M (約3,330億円)	-
	ウエストエンド	1999年	na	na	-
	日 本	1998年	na	na	-
レ・ミゼラブル	映 画 版	2012年	\$61M (約90億円)	\$443M (約680億円)	ユニバーサル
	ブロードウェイ	1987年	\$65M (約100億円)	\$600M (約930億円)	-
	ウエストエンド	1985年		na	-
	日 本	1987年	na	na	-
オペラ座の怪人	映 画 版	2004年	\$80M (約120億円)	\$155M (約240億円)	ワーナー
	ブロードウェイ	1988年	\$20M (約31億円)	\$1,300M (約2,010億円)	-
	ウエストエンド	1986年	na	na	-
	日 本	1988年	na	na	-

映画の興行収入は全世界（但しWicked Part 2は2026年1月4日現在）、日本円は155円/ドル換算の現在価値

■ 主な配役

□ シンシア・エリーボ Cynthia Erivo (**エルファバ** Elphaba)

38才、イギリス人(ナイジェリア移民)、歌手、映画・TVでも活躍する影響力のある黒人女性

舞台：天使にラブソング(イギリス)、カラーパープル再演(2015年ブロードウェイ)

ハリウッドボウル：2025年ジーザス・クライスト・スーパースター

エミー賞、グラミー賞、トニー賞を受賞、アカデミー賞はノミネート

カソリック教徒、ビーガン、バイセクシュアルを自認

□ アリアナ・グランデ Ariana Grande (**ガリンダ(グリンダ)** Galinda “Glinda”)

32才、イタリア系アメリカ人、8才で歌手デビュー、ミュージカル“アニー”で子役

シンガーソングライターとして数々の全米1位となるアルバムをリリース

音域はソプラノで4オクターブ、映画ならびにTV俳優としても活躍

グラミー賞受賞、ゴールデングローブ賞、アカデミー賞ノミネート

ビーガン、現在最も影響力のあるインフルエンサーのひとり

□ ジョナサン・ベイリー Jonathan Bailey (**フィエロ** Fiyero)

37才、イギリス人、シェイクスピア王立劇場出身、映画俳優

舞台：オテロ、リチャード2世、レ・ミゼラブル、ラスト・ファイブ・イヤーズ、他

ローレンス・オリビエ賞受賞(2019年カンパニー)

LGBTQ+を支持するフィランソロピスト

□ ジェフ・ゴールドブлум Jeff Goldblum (**オズの大王** Wonderful Wizard of Oz)

73才、アメリカ人、映画：ジュラシックパーク(数学者役)、インディペンデンスデイ

■ 主な配役（つづき）

□ イーサン・スレイター Ethan Slater（**ボック** Boq）

33才、アメリカ人、ニューヨーク州バサール大学Vassar College卒
映画・TV俳優、ブロードウェイ: スポンジ・ボブ、キャメロット、スパマロット

□ マリッサ・ボウディー Marissa Bode（**ナッサローズ** Nessarose）

25才、アメリカ人、American Musical and Dramatic Academy卒
11才の時に自動車事故に会い実生活でも車いすを使用、今回メジャーデビュー

□ ミッシェル・ヨー Michelle Yeoh（**モリフル先生** Madame Morrible）

63才、中国系（マレーシア系）アメリカ人、イギリス王立ダンスアカデミー出身
映画: ハリウッドならびに香港で数々のアクション映画に出演
アカデミー賞、ゴールデングローブ賞受賞

□ ボーエン・ヤン Bowen Yang（**ファニー** Pfannee）

35才、オーストラリア生まれのアメリカ人、アメリカ最大のTVコメディ番組であるサタデー・ナイト・ライブのレギュラーとして2018年～2025年まで活躍

■ 監督 ジョン・チュー Jon M Chu

46才、中国(台湾)系アメリカ人、南カリフォルニア大学University of Southern California卒

Part 2 のアカデミー賞の予備投票と 正式ノミネートの結果

- 映画公開約1カ月後の12月16日に発表された第98回（2026年）アカデミー賞の予備投票（shortlist）では、予備投票の12部門中で最多の8つのノミネートが発表されました（正式ノミネートは1月22日、授賞式は3月15日）
 - ① **Casting** 配役賞（2026年新設）
 - ② **Cinematography** 撮影賞
 - ③ **Makeup And Hairstyling** メイクアップ&ヘアスタイル賞
 - ④ **Original Score** 作曲賞
 - ⑤ **Original Song** 歌曲賞 “No Place Like Home” performed by Cynthia Erivo（ブロードウェイになかった新曲）
 - ⑥ **Original Song** 歌曲賞 “The Girl in the Bubble “ performed by Ariana Grande（ブロードウェイになかった新曲）
 - ⑦ **Sound** 音響賞
 - ⑧ **Visual Effects** 視覚効果賞
- その後、1月22日での正式ノミネートでは3月15日の授賞式でTV放映される全24部門のうち「罪人たち」が史上最多の16部門でノミネートされ、Wicked Part 2は残念ながらノミネートはゼロに終わりました

映画版をより楽しむために

ブロードウェイ、劇団四季を見た人に

- 映画版の2024年 Part 1、2025年 Part 2はそれぞれブロードウェイ版ミュージカルの1幕、2幕に相当、ストーリー、楽曲順も踏襲
Part 1のOne short dayにはブロードウェイ初演で主演を演じたイディナ・メンゼルとクリスティン・チェのウェスが登場する
またPart 2には新曲が2曲追加された
- 映画版はストーリーの展開に余裕を持たせ、ブロードウェイにはなかった幼少期や、ドロシーとの関係などのサイドストーリーも描かれている
- 映画版はブロードウェイや劇団四季の舞台を見ていなくても、また題材となった1900年の原作「**オズの魔法使い**」を知らなくても、ストーリーとともに俳優の実力や美しい映像で十分楽しめるが、理解を深めるためには「オズの魔法使い」によるアメリカ社会に対するメッセージを知っておくと更に楽しめます
- なお、ガリンダ(グリンダ)役は歌唱でLow E (I am not that girl) から Double high G# (No one mourns the wicked) まで3オクターブを超えるオペラの声域が必要な難役なのも見どころのひとつ

アメリカ童話「オズの魔法使い」

- 「**Wicked**」は「**オズの魔法使い**」から時間をまき戻し、より古い時代の裏話として語られている
- 「**オズの魔法使い**」は1900年にアメリカで書かれた童話
アメリカ人なら女の子でも男の子でも絵本や本で繰り返し読んだり学芸会で演じたりしたような、日本で例えるなら「桃太郎」や「浦島太郎」のような誰もが知っているおとぎ話
- 1902年に早くもミュージカル化、最初の映画化は1908年で以降度々映画化、1939年にジュリー・ガーランド主演で決定的な評価を獲得、楽曲**Over the Rainbow**とともに日本人にも映画版が親しまれてきた
- その「**オズの魔法使い**」の裏返しが「**Wicked**」
誰もが知っている童話をどう裏返したのか、大人に成長したみんなが引き込まれる娯楽作品であるだけでなく、「**オズの魔法使い**」と同様に非常にメッセージ性の高い作品になった

オズの魔法使いが描いたアメリカ社会

□ オズの魔法使い (Wonderful Wizard of Oz)

- 1900年に出版されたアメリカの児童文学作品、アメリカ初のファンタジー、アメリカ的な旅をしながらのエピソードの積み重ね
- オズの国とアメリカ的な地政学
四方を砂漠に囲まれた過酷な自然と貧しい生活、東西は悪い地域（新旧大陸と社会構造を暗喩）、**イエロー・ブリック・ロード**は「金」すなわち個人の夢を搾取する資本主義への道
- **かかし**の**脳みそ**は一行のブレイン、**きこいの心**は他者への共感と思いやり、**ライオン**の**勇気**は恐怖を乗り越えて行動を起こす気持ち、**空飛ぶサル**は動物たちの妖精、**西の魔女**の支配は奴隷化とその死は解放を暗示、少女**ドロシー**は人間の精神
- なお、**魔女(witch)**は、旧約聖書(創世記3章16)の「汝の意志は夫に属し、夫が汝の支配者であらねばならぬ」とキリスト教が父性宗教であることの影の部分、すなわち異端（悪魔）を指し、**ドロシーと西の魔女の対決**は16～17世紀のヨーロッパでの魔女狩り（異端の弾圧）に通じている

現代に引き継がれるメッセージ

「Wicked」は「オズの魔法使い」とどうつながっているか

□ Wicked

- 1995年グレゴリー・マグワイヤーが小説「Wicked」出版
「オズの魔法使い」の遙か昔、西の魔女と南の魔女の誕生と異端の友情の物語
- 現代社会へ引き継がれるメッセージ
 - グリンダとエルファバ ⇒ **境遇の異なる者(異端)がお互いを理解する重要性**
 - マンチキンとオズの魔法使い ⇒ **衆愚心理と腐敗政治への警鐘**
 - 肌の色の違いと動物共存社会 ⇒ **弱者への差別問題への警鐘**
 - ⇒ **社会のリーダーはどうあるべきか、本当の善悪とは何か、を考えさせる**
- 2003年ブロードウェイ版が開幕
脚本ウィニー・ホルツマン、作曲スティーブン・シュウォルツで5年の制作期間をかけ制作、人気女優クリスティン・チェノウェス（グリンダ）とイディナ・メンゼル（エルファバ）が配役された
現在、22年を経てブロードウェイ史上4番目のロングラン中、チケット価格は189ドル～475ドル（2025年12月）
- ミュージカルの本質である楽曲（歌詞）により観客へのメッセージ性をより高めている（観客はついメッセージを口ずさんでしまう）

(参考)フロードウェイ版オリジナルキャスト

- **エルファバ**を演じた**イディナ・メンゼル**はユダヤ系（当時32才）。レントのオリジナルメンバーとしてメジャー初舞台、Wicked当時も無名に近かったがトニー賞主演女優賞を取り、その後フローズンで一躍有名に。

今年は彼女が長年夢だった女性だけで制作し、現代女性の生き様を描いた「レッド・ウッド」に主演しましたが、翌朝の評価は散々でした。私も最前列で見ました。舞台装置、歌唱はチャレンジングで素晴らしいと思ったのですが、日本には全く紹介されていません。

- **ガリンダ（グリンダ）**を演じたのは**クリスティン・チェノウェス**（当時35才）。オクラホマ出身。金髪でグラマラスな典型的な白人。小柄でコメディセンスも抜群。Wicked以前から既に定評のあった人気俳優。若いころはオペラ歌手を目指し、その高音域での歌唱に魅力がある。養子として育ったこともあり、フィランソロピスト（博愛主義）を自認。2004年のトニー賞ではその知名度からイディナとともに主演女優賞にノミネートされむしろ本命と目されたが、イディナにさらわれた。

今年はやはり自身も制作に携わったミュージカル、クイーン・オブ・ベルサイユに主演しましたが酷評され早々に打ち切りに。

(参考)ブロードウェイ版オリジナルキャスト（つづき）

- Wicked開幕時に最も高名だったのは**オズの魔法使い**を演じた**ジョエル・グレイ**（当時71才）。1966年のミュージカル・キャバレーでエムシー役で高い評価を得て長年ブロードウェイとハリウッドで活躍。トニー賞、アカデミー賞、ゴールデングローブ賞を受賞している。Wickedにはオズのソロが前後半に2曲あるが、ジョエルが出演交渉で要求したと言われている。
- **フィエロ**に起用されたのは**ノバート・レオ・バッツ**（当時35才）。レント（オリジナル）のアンダースタディーでブロードウェイデビュー。その後、やはりキャバレーのエムシー役やWickedの後、ダーティー・ロトゥン・スカウンドレス（邦題、ペテン師と詐欺師）でトニー賞主演男優賞を取っている。映画やTVの出演多数。
- **マダムモリフル**を演じた**キャロル・シェリー**（当時64才）も既にストリートプレイでトニー賞主演女優賞を取った大女優だった。イギリス人。2018年に79才で亡くなった。

(再録) フロードウェイでの個人的感想

～ 日本語訳の難しさ ～

ストーリーが本当によくできていて、韻(いん)を踏む英語のセリフ回し、細かな伏線の回収は何度見ても素晴らしく、迫力のある楽曲、大掛かりな舞台装置を使って、圧倒的なスピード感とともに、自分たちと違うものへの差別問題をテーマにした強力なメッセージが伝わり考えさせられます。

以下は私見ですが、劇団四季による日本語版は翻訳の語感の難しさからかストーリーが一部カットされ、ニュアンスやメッセージが弱くなっているのが残念。

グリンダは最初はガリンダだったのが、ディラモンド教授の逮捕でダイバーシティに目覚め、彼が（動物であるために）訛っていた発音に合わせて自分の名前をグリンダ変え、それがフォーグッドの「**グ**」の発音へ重ねられ、ラストシーンで自らグッドウィッチと名乗るまでに変化していくグリンダの成長過程はカットされています。演じ方によってはエルファバ以上にグリンダに感情移入できるストーリーですが、日本語版はエルファバ中心のストーリーになっています。

冒頭でエルファバが初対面のグリンダを「**blond !**」のひと言で切り捨てるあざやかな語感、グリンダが緑色のエルファバをからかう「**artichoke steamed**」（アーティチョークは日本になじみがないのでそら豆に置き換え）、グリンダが歌う「**Popular**」は本来は人気者の意味ですがこの場面での使い方は必ずしもポジティブなニュアンスではなく、またモリブル先生とグリンダが冒頭と最後で2度使う「**what it takes**」（その価値があるの意味）は立場が逆転して言ういやみのリフレインです。

(再録) ブロードウェイでの個人的感想(つづき)

～ 日本語訳の難しさ ～

オズがエルファバに会って言う「**world is your oyster**」(シェークスピア喜劇「ウィンザーの陽気な妻たち」からの引用)は知らないとは理解できない。

2幕目最初、グリンダの婚約披露の場面でフィエロが言う「君が幸せなら僕はそれでいいよ」は、英語では相手を振る時の典型的な言い方で客席から笑いが起きます。「**No place like home**」は原作のオズの魔法使いでのドロシーの有名なセリフをエルファバが全く違う状況で使って、ここで言うのかと毎回笑いが起こる場面です。

エルファバが「**Unlimited**」から「**I'm limited**」に変化するのは、韻を踏む分かりやすい例ですし、グリンダが最後に歌う「I have been changed for good」の**for good**は「私は**いい**人(いい魔女)になる」と「私は**永遠に**変わる」の2つの意味をかけ言葉で一文で表現する秀逸さ。ニュアンスにあっと感動します。

アメリカ文化をそのまま日本に置き換えても伝わらないのは仕方ないですが、ブロードウェイ版はアメリカの女子高生のアクセントで、しかもかなり早口で演じられます。劇団四季の確実に伝える発声法とは異なりますが、情報量はより多いです。生演奏で、カーテンコールは1回のみ。カーテンコールが終われば、まだオーケストラの演奏が続いている中で観客が劇場を後にするのは大きな違いです。それと「ウィキッド」は残念。アメリカ口語でwickedは「いじわる」の意味ですが、発音は誰に聞いてもやっぱりウィケッドですね。(2024年3月記)

出典等

- オズの魔法使い、1990年、L F バウム作、W W デンズロウ画、渡辺茂男訳
- The Annotated Wizard of Oz, 1973年, Mickael Patrick Hearn
- Wicked the life and times of the wicked witch of the west, 2004年、Gregory Maguire
- Wicked the Grimmerie、2005年、David Coted
- Wicked vocal selections and piano/vocal selections、2004年、Hal Leonard Corporation
- 名作をもう一度「オズの魔法使いを読む」、2025年、梶山女学園大学教授 長澤唯史
- 世界認識の再構築、2025年、多摩大学学長 寺島実郎